

—————
 雑 報
 —————

星間塵の赤外スペクトルについての Workshop

July 19-20, 1983 Hilo, Hawaii. 主催者は Leiden 大学のグリーンバーク大先生。

正式名称は、Workshop on Laboratory and Observational Infrared Spectra of Interstellar Dust である。

宇宙研の奥田さんに勧められ、和田さんに尻を叩かれて、行くことに決めたのが、6月20日。尾中さんに原稿をつくってもらって、7月18日、夜9時に成田を発って、ホノルル着が18日朝9時。完全な時差ボケ。それから、Hawaiian 航空で Hilo へ。18日夜、6時30分に Sheraton Waiakea Village Hotel に着く。すぐ7時から、Reception. 明日からの workshop の program discussion をしながら、ワインと料理で談笑。

翌日、ハワイ大学の図書館の2階で workshop. 参加者は約20名。Hawaii Univ. から Becklin ほか数名。UKIRT (イギリス赤外望遠鏡) から、Galet, Geballe ほか数名。日本から、長谷川さん (京大) と私。その他、アメリカ各地から、NASA/AMES の Seab と Tielence. JPL の Pang. California Univ. San Diego の Jones. Texas Univ. の Demestein. それに世話役は Leiden Univ. の Greenberg と Edinburgh Royal Obs. の Wol-

stencroft. 観測勢が5割、実験屋が3割。理論その他が2割といったところである。

初日は、グリーンバーク先生に敬意を表しつつ (?), dust の ice mantle formation を中心に話が続いた。しかし時々、Hawaii 大学の観測陣からクレームがつけられる。どうやら、最近の観測を総合すると ice mantle が考えられるのは、protostar の dust が中心らしい。長谷川さんは、nucleation と mantle formation を結びつけた話。3.0 μ の broad feature は H₂O と NH₃ などの分子をこねてつくったマントルで説明する傾向が強い。それと合せて、6.0, 6.8 μ m の Abs. feature も説明できるかといったところである。

翌日。Unidentified emission features の話を中心に午後まで活発な speech and discussion. 3.28, 3.42 μ m と マウナ・ケアの望遠鏡が中心となるので、6 μ m より長波長の lines の話は残念ながらもなかった。圧巻は UKIRT の Gatley の1時間におよぶ大 speech. Galactic Center で、H の Emission と 3.28 μ m emission feature は逆相関を示すという。そして、最後にまとめて、①何が U lines を示すか? ②U lines の carrier は何か? ③U lines の emission の excitation は何によるのか? こう問題をしぼるべきであると。私もその後、実験屋からの示唆として、U lines の炭素質物質による可能性を実験データで示した。impressive, exciting などとお世辞を

わが国唯一の天体観測雑誌

天文ガイド

定価380円(〒70)'83-12月号・11月5日発売!

12月号のおもな内容

- ★1984年の天文ハイライト; 来年はどんな天文現象が見られるのか? 天文年鑑より一足お先に紹介します。
- ★都会でスターウォッチング; 今回は東京都利島です。
- ★カスタムクラフトPart III. 25cm F 2.7 シュミットカメラ製作記。目下注目の自作記です。鋭いピントを出すまでの調整が大変なのです。
- ★レンズテスト; 今回は超広角15 μ mのテスト。
- ★観測ガイド12月; ベテラン観測家藤井旭さんの流星群のガイド。ふたご座流星群が話題の中心です。
- ★このほか、私の愛機、同好会誌紹介、テレスコープエンジニアリング、マイコン教室、12月の星座ガイドなど、情報を満載!

創刊36年 他の追隨を許さない! 天文年鑑 1984

予定価480円★11月5日発売

B6判のハンディサイズ、

星空への便利な案内書。

毎年、毎年 爆発的に売れています

1月から12月までの空の案内のほかに、

惑星、小惑星、流星、彗星、
 新星、変光星の一年間の予報、
 天体観測に最低限必要なデータ、
 前年の天文界トピックス
 などを満載した 観測必備書

誠文堂新光社

〒101 東京都千代田区神田錦町1-5
 振替東京7-6294 電話03(292)1221

いわれて、気をよくした。午後の終りに polarization の話があった。どうも確定的な結果は出ていない。これからの課題である。

総じて、interstellar dust の話は、220nmhump で carbonaceous, 3μm 吸収で、H₂O ice, 9.7μm では Si-O 系シリケートときまったようである。そして、IR の U lines は今回の Workshop で Organic と煮つまってきた。残るは、吸収係数の波長依存性すなわち、dust の extinction curve の全体の形は何によってきまるのかという問題である。(坂田 朗)

天文ナンバーワン物語 [XI]

「一番大きかった太陽黒点」

太陽面上に黒いしみの存在することは紀元前からわかっていた。ギリシャのテオフラストス (BC 372-288) は アリストテレスの高弟で、人間の性格研究で有名であり、また植物学の祖といわれる人であるが、その事蹟の中に黒点の記事があるそうである。不幸にして太陽の完全無欠球体を信ずる師の説と相容れなかったため、西欧における黒点の認知は 17 世紀までお預けになってしま

賛助会員名簿

(1983年10月5日現在の本会賛助会員は下記のとおりであります。ここに社名、代表者名を掲載させて頂いて感謝の意を表します。(五十音順))

Table with 4 columns of member names and their representative names, including organizations like 旭光学工業株式会社 and 朝日新聞社.

1983年8月の太陽黒点 (g, f) (東京天文台)

Table with 15 columns and 5 rows of solar spot data (g, f) for August 1983, with a relative monthly average of 107.1.

昭和58年10月20日 発行人 〒181 東京都三鷹市東京天文台内 社団法人 日本天文学会
印刷発行 印刷所 〒162 東京都新宿区早稲田鶴巻町125 啓文堂 松本印刷
定価 300円 発行所 〒181 東京都三鷹市東京天文台内 社団法人 日本天文学会
電話 三鷹 31局 (0422-31) 1359 振替口座 東京 6-13595